



新野高等学校から マリーゴールド150株が寄贈される



学校版ISO活動に取り組む新野高等学校の皆さんに、丹精込めて育てたマリーゴールド約150株（プランター30個分）を、市役所や消防本部などに寄贈していただきました。6月26日、生徒会や総合実習で花づくりに取り組んだ2、3学年の生徒19人が市役所を訪れ、玄関前で贈呈式が行われました。生徒会会長の大野一朗さん（3年）は、「市民の皆さんに少しでも喜んでもらえたらうれしいです。」とあいさつ。篠原総務部長は、「皆さんの気持ちが市民に届けられるよう、しっかりと管理させていただきます。」とお礼を述べました。当日は小雨が降るあいにくの天気でしたが、生徒の表情は皆晴れやか。1つ1つ丁寧にプランターを並べていました。新野高等学校の皆さん、ありがとうございました。

渚に響く歓喜の声 北の脇・淡島海岸で待望の海開き



待ちに待った海水浴シーズンの到来です。世界文化遺産に登録された富士山などで山開きが行われた7月1日、阿南市では、日本の渚百選に選ばれている北の脇海岸や淡島海岸で海開きが行われました。神事で開設期間中の海の安全を祈願した後、関係者によるテープカットが行われ、見能林幼稚園児約80人が初泳ぎを楽しみました。波が打ち寄せるたびに歓声を上げる子どもたち。「冷たかったけれど面白かった」と、待ちに待った海水浴に笑顔がはじけていました。海水浴場の開設は8月20日（火）まで。8月4日（日）にはイベントが予定されています。熱中症や紫外線対策を万全に、安全で楽しい海のレジャーをお楽しみください。

100体のかかしで来場者を出迎え 市民ボランティアの力で大会盛り上げる



今年10月に開催される日本女性会議の参加者を手作りのかかしでもてなそうと、那賀川町新町地区の皆さんがかかしづくりに取り組んでいます。テーマは、防災、料理、祭り、野球のまち阿南の4つ。男性が廃材などを使って骨組みを作り、女性が家から持ち寄った古着を着せました。およそ3週間で33体が完成。「かかしづくりを通して男女共同参画の精神を学んでいます。ようこそ阿南市への思いが伝わればうれしいです。」と、1つ1つ丁寧に仕上げていました。かかしづくりは、ボランティア梅星団（長生町）、四つ葉会（中林町）でも行われており、当日は100体のかかしが体育館周辺の道路沿いに設置される予定です。

夏風にそよぐ仙台七夕飾りの下で 園児たちが元気な遊戯を披露



今夏で開設11年目を迎える阿南西部公園で、7月14日、地元住民による「第8回西部公園七夕まつり」が開催されました。会場には、高さ6mの仙台七夕飾りや、小学校や支援学校、婦人会などによる模擬店が設営され、開会とともに大勢の親子連れでにぎわいました。「ザ・カーヤー」というユニーク名前を出店していた大野小学校5年生の皆さんは、訪れた人々に「涼」を届けようと、手作りのうちわを販売。芝生広場では大野幼稚園児などによる歌や踊りが披露されました。実行委員長の遠藤 清さん（72歳）は、「阿南西部公園は県下でも有数の公園。地元の誇りでもあり、地域住民が力を合わせてにぎわいを創出していきたい。」と話していました。

阿南市イメージアップキャラクターの デザインが決まる



阿南市イメージアップキャラクターのデザインを決める選考委員会が7月11日に開催され、キャラクター人気投票で1番人気の作品が最優秀キャラクターに選ばれました。最優秀キャラクターの作者は、神戸市在住の本山清数さん（61歳・自営業）。受賞の連絡を受けた本山さんは、「元気な阿南市を発信することに寄与できて大変光栄です。」と喜びを語っていました。最優秀、優秀作品の作者には、賞状や賞金等が贈られます。市では、さっそく着ぐるみの製作に取り掛かり、8月～9月にネーミング募集・決定を行った後、10月12日（土）の「日本女性会議〈男女共同参画〉2013あなん」の全体会で着ぐるみをお披露目することにしています。

こども甲子園に24チームがエントリー 初の栄冠を手にするのはどのチーム！



8月1日に開幕する「野球のまち阿南 第1回全日本学童軟式野球大会」の組み合わせ抽選会が6月22日にひまわり会館で行われ、近畿・中国・四国・九州ブロックおよび本市から出場する24チームの組み合わせが決まりました。本市からは予選を勝ち抜いた5チームが出場します。本大会は市制施行55周年記念事業として開催します。阿南で生まれたこども甲子園。初の栄冠を手にするのはどのチームか。大会は8月4日まで、JAアグリあなんスタジアムなど4球場で開催されます。始球式には元メジャーリーガーのマック鈴木さんが登場。徳島県に住みます芸人・キャンパスボーイがグラウンドリポーターとして大会を盛り上げます。頑張れ球児たち！頑張れ、阿南市代表チーム！

新野と羽ノ浦の市民グラウンドを改修



野球をはじめ市民の憩いの場として親しまれている市民グラウンドの施設老朽化に伴う改修工事を行いました。施工したのは、新野グラウンドと羽ノ浦グラウンドの2カ所。新野グラウンドは、外野の土の入れ替えやフェンスの改修などに加え、観客席を新設。羽ノ浦グラウンドは、防球ネットや外野フェンスなどを改修しました。いずれの本体工事も7月中旬に完了し、7月末から使用を再開しています。工事費は約7,750万円。8月2日から、両グラウンドで「野球のまち阿南 第1回全日本学童軟式野球大会」が開催される予定で、リニューアルしたグラウンドで球児たちによる白熱したプレーが見られるのが楽しみです。

ハートでつながる婚活支援の輪 大分県九重町からの視察を受け入れ



本市の若手職員でつくる「婚活応援隊」の取組を学ぼうと、6月28日、大分県玖珠郡九重町から「九重しあわせ応援隊」のメンバー7人が阿南市を訪れ、イベント企画や広報活動などについて情報交換を行いました。九重町は大分県南西部に位置する人口約1万人の町。若者の定住と地域おこしを図ろうと、今年5月に「九重しあわせ応援隊」を結成し、町ぐるみで婚活支援に取り組もうとしています。隊長の帆足一悦さん（23歳・町職員）は、「野球観戦をしながらの婚活イベントなど、阿南市の特色をうまく生かした企画は参考になります。将来、一緒にイベントが開催できればいいですね。」と視察の手ごたえを感じていました。